

キャラクター名
飛行薬研

プレイヤー名

シンドローム	オルクス		ワークス	傭兵	カヴァー	
	エンジェルハイロウ					
オプション			年齢	32	性別	男
覚醒	憤怒	衝動	闘争		初期侵食率	36%
出自	兄弟	経験	闘いの日々		邂逅	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	16
感覚	4	0	0		3	7	(非装備時)	16
精神	2	0	0			2	戦闘移動	21
社会	2	0	0			2	全力移動	42

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	3		RC			交渉		
回避			知覚	1		意志			調達		
運転:	2		芸術:			知識:			情報: 軍事	1	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
戦闘ヘリ	運転	1r+2	18	5		Up66/経験点50、ユニークアイテム、行動-3、全力移動200m
チェーンガン	射撃	7r+1	-	15		R2p187/同ロガー-ジ不可。戦闘ヘリにより自動取得。

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
情報収集チーム	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	ロイス	消費
Dロイス: 実験体P		N		
兄弟	P 幸福感	N 疎外感		
敵	P 遺志	N 敵愾心		
連続殺人犯	P 好奇心	N 猜疑心		
獅堂漆	P 有為	N 嫌気		
押切修造	P 連帯感	N 隔意		
伽藍光	P 好奇心	N 不安		

最大財産P: 4 残り財産P: 2

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト: オルクス	2	2	Xジャー	-	-	シンドローム	-	
効果: C値-Lv(下限7)								
要の陣形	3	3	Xジャー	-	3体	シンドローム	-	
効果: 対象を3体に。シリアLv回。(最大Lv3)								
形なき剣	1	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: <白兵><射撃>ドッグフェイス-Lv個。								
小さな塵	1	2	Xジャー	武器	-	対決	-	
効果: LV*2の<射撃>攻撃								
マスヴィジョン	2	4	Xジャー	-	-	シンドローム	100	
効果: 攻撃力+LV*5。シリア3回。								
ナイトライダー	1	2	Xジャー/リアクション	-	-	-	-	
効果: <運転:>ドッグフェイス+Lv個								
アニマルテイマー	3	3	Xジャー/リアクション	-	-	シンドローム	-	
効果: ドッグフェイス+Lv+1個。(最大Lv3)								
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 対象ドッグフェイス直後。出目1つを10に。1判定1回、シリアLv回。								
ミスディレクション	1	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果: 対象: 範囲or範囲(選択)を単体に変更。シリアLv回。								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

計230点-戦闘ヘリ50点=成長履歴欄180点 (Dロイス分は修正欄のため成長履歴欄反映されない)
寄られたらとりあえず戦闘ヘリで体当たりする構成。

とある街で、地主だった粟口家の息子として多くの兄弟たちと平凡に暮らしていた。しかし、10歳の時にオーヴァードの適正があると誘拐され、ある研究施設で実験体になれる。中々覚醒しない実験体同士での殺戮訓練で覚醒、それでもオーヴァードは誰かを守るための力だと信じている。捜索願が出ていたが、行方不明から7年後両親から失踪宣告がなされ、戸籍上は死人となる。19歳の時に研究施設が襲われ、命からがら逃げ出す。研究施設では番号と呼ばれ、追われる身では粟口の家に戻ることもできず、粟口の名は捨てた。オーヴァードとして覚醒していたこと、生身でも訓練を受けていたことから海外に渡り、傭兵として生きる。根無し草で昨日の友が今日の敵ということもあり、多種の国籍の人と呑み交わした。敵対者にも守りたいもの、大切な人、信念、正義があるとわかった上でその意志を殺す重さを飲み込んでいる。29歳の時に思い至って日本へ帰国、津々浦々旅行をしていた際に、偶然兄弟たちと再会する。両親は事故死していたが、兄弟たちは今でも薬研を待っていたと泣いて喜んでくれ、これ以上ない幸福を味わった。今は日本を拠点に仕事があれば請け負いながら、時に兄弟たちと会っている。「俺の兄弟たちに手出す奴は、相手が誰であれ容赦しねえな」

※マイナーでヴィークルに搭乗する。